

## (12) 沖縄



沖縄地域では、景気は着実に回復している。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は堅調に増加している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)。

### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成28年8月)	今回(平成28年11月)	
住宅建設	大幅に減少	減少	

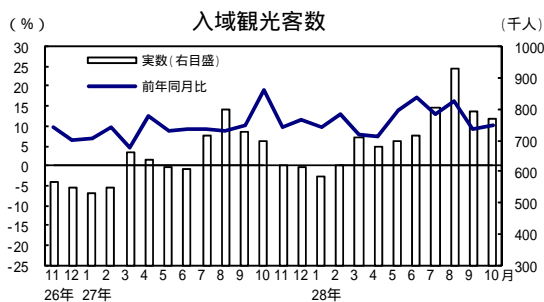
### 1. 観光及び企業動向

#### (1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数のうち、国内客について、7月は、各航空会社による深夜便を含む増便等、航空路線の拡充があったこと等から前年を上回った。8月は、夏休み旅行需要の高まりにより各航空会社及び旅行会社の販売状況が良好だったことや、各航空会社による深夜便やお盆期間を中心とした増便等、航空路線の拡充があったこと、台風の影響がほとんどなかったこと等から前年を上回り、単月の過去最高を記録した。9月は、増便等による航空路線の拡充があったこと等から前年を上回った。

外国客については、7月は、新規就航及び路線再開を含む航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港回数の増加により、空路・海路ともに順調に増加し、単月の過去最高記録を更新した。8月は、夏場の旅行需要に加え、クルーズ船の寄港回数が大幅に増加したこと等により、空路・海路客ともに順調に増加し、単月の過去最高記録を更新した。9月は、中秋節の連休による旅行需要に加え、引き続きクルーズ船の寄港回数が増加したことにより前年を上回った。

主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテル、リゾートホテルともに前年同期を上回っている。



#### 入域観光客数等の動向

(単位: 千人、%)

	28年1-3月	4-6月	7-9月	28年10月
入域観光客数	1,913	2,093	2,526	768
(前年比)	10.0	12.7	12.9	10.2
ホテル稼働率	80.3	79.0	88.8	-
(前年差)	1.2	1.9	1.0	-

(備考) 1. 入域観光客数は中総県観光政策課調べ。

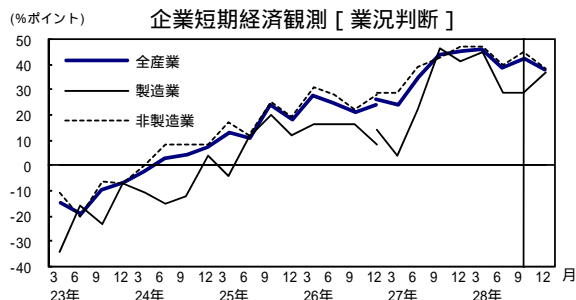
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

3. ホテル稼働率の前年差については、内閣府にて算出。

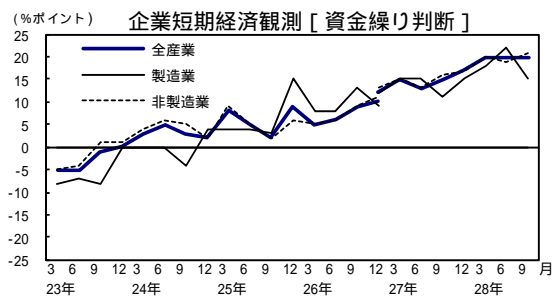
(12) 沖縄

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

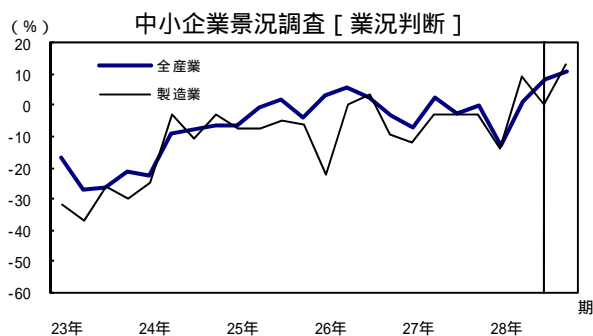
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年12月は予測。  
26年12月は新・旧基準を併記。



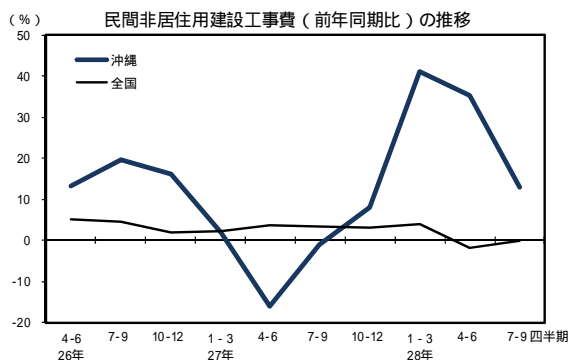
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]  
「観光土産向け商品が毎月着実に伸びている(食料品製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

	27年度実績	28年度計画
全産業	8.3	24.4(0.6)
製造業	50.7	47.6(0.7)
非製造業	3.7	21.9(0.6)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。

## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は堅調に増加している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

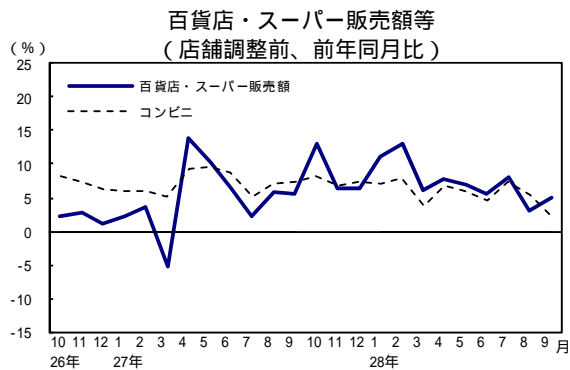
7月は前月比0.1%増、8月は同0.5%減、9月は同0.2%減となった。

百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパー販売額は、7月は販促効果等から前年を上回った。8月は旧盆の早まりでお中元ギフトの催事期間が前倒しとなった影響等から前年を下回った。9月は外国人観光客による化粧品の消費が堅調なこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月) [家計動向関連 (現状)]

「設計事務所から見積依頼や、設計基本プラン段階での建築概算金額の積算協力依頼などがあり、受注は安定している。また、建築請負契約目前の案件も多い(住宅販売会社)」など、「変わらない」とする回答が増加した。

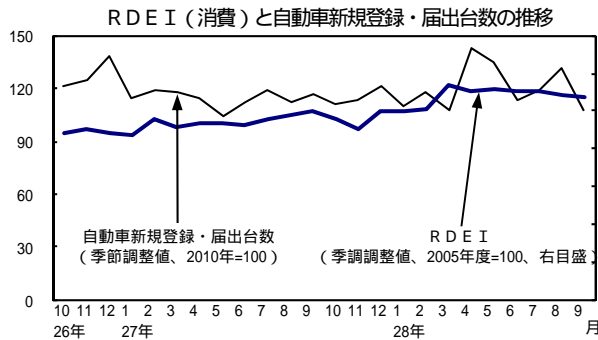


	28年7-9月	28年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.4	0.1	0.5	0.2
百貨店・スーパー(*2)	5.3	8.1	3.1	5.0
コンビニ(*2)	5.1	7.4	5.5	2.3
乗用車(*3)	1.1	0.7	15.6	6.1
(季節調整値)(*3)	8.1	5.8	10.2	17.9

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 百貨店・スーパーは経済産業省調べ(店舗調整前)、コンビニは日本銀行別荘支店調べ、前年同期(月)比 (%)

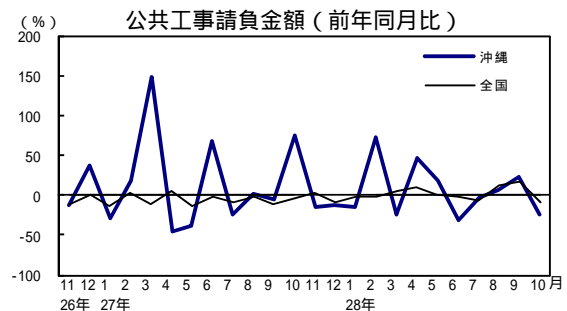
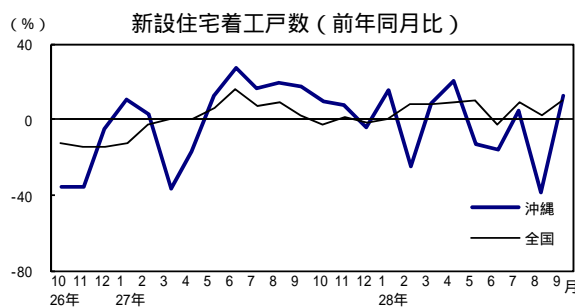
3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%) )



(2) 住宅建設は減少している。

貸家が前年を下回ったことから、減少している。

(3) 公共投資は28年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

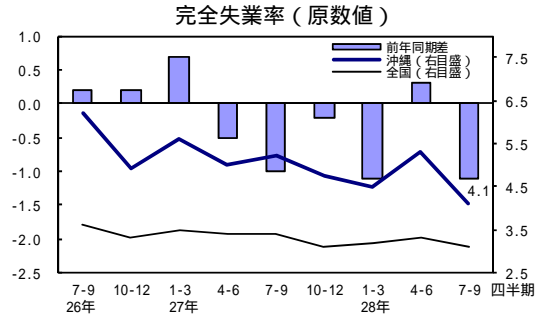
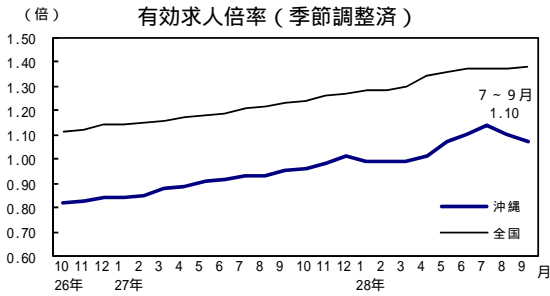


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考) 沖縄県の完全失業率は、沖縄県「労働力調査」より算出。

景気ウォッチャー調査(10月)[雇用関連(現状)]

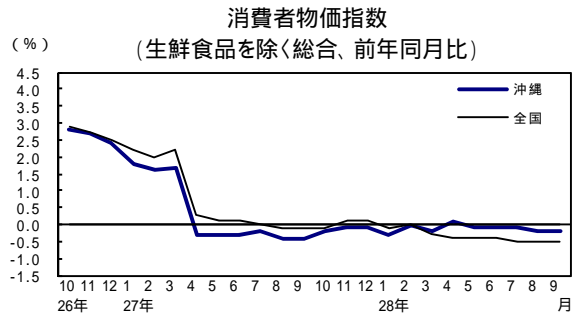
「依然として登録者数が低調で、さらに求職者の求める就業条件も高くマッチングできない状況がある(人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円) %				
	27年10-12月	28年1-3月	4-6月	7-9月	28年10月
倒産件数	16	15	12	6	2
(前年比)	42.9	31.8	0.0	66.7	33.3
負債総額	19	27	8	4	3
(前年比)	7.3	18.8	10.1	92.7	18.9



景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・9月下旬に発売された新商品により市場が活気付くと思われたが、初動のみで長続きはせず落ち着いてしまっている。毎月の出費を抑えたいという要望も多く、新規契約の獲得も少なく予想に反して振るわない1か月だった(通信会社)。

<先行き>

・早くも次年度向けの就職サイトがオープンするなど、活気が感じられる(学校[専門学校])。

景気ウォッチャー調査(季節調整値)

